

検診機関の検索: 国民健康保険公団ホームページ(www.nhis.or.kr)/利用頻度の高いメニュー/病院及び検診機関/(検診機関検索)

※ 公団が実施するがん検診は、同一がんにおいて検診周期内に2回以上検診を受けた場合、検診費用を受検者にご請求させていただきます。

※ 検診機関は公団ホームページ(www.nhis.or.kr)または支店(全国共通1577-1000)にてご確認ください。

住所印刷部分

がん検診票の代替用です。

----- 結果通知書の発送住所として活用されますので、切り取らないでください。 -----

年度がん検診対象者確認書(検診機関提示用)

氏名	住民登録番号			-1(2)*****			
検査項目・費用							
区分	胃がん	肝臓がん (上半期)	肝臓がん (下半期)	大腸がん	乳がん	子宮頸がん	肺がん
対象/費用 ^{注1)}							
医療費支援							-
検診実施期間	.12.31.まで。但し、胃がん・大腸がんの2段階検診は翌年度の.1.31.まで 肝臓がんは年2回実施 :上半期(6月30日まで)と下半期(12月31日まで)に各1回						
以上のように、 年度がん検診対象者であることを確認します。							
国民健康保険公団				支店長(職印)			

注1) 費用負担表記

① 本人負担なし: 一般健康診断及び子宮頸がん、大腸がんは公団の全額負担で、
国家がん検診対象者としての胃がん・乳がん・肝臓がん、肺がんは公団が90%、国が10%負担

② 10%負担: 公団が90%、受検者が10%負担
※ 10%の負担金額は「健康保険療養給与費用」改定時に変更される場合があります。
※ 相談・行政費用と該当検査費用の合計から本人負担金を計算した後、10ウォン未満は切り捨て

③ 非対象 : 該当項目の検診対象者でない者

④ 受診完了: 該当検診の受診をすでに完了した者

⑤ 医療費支援対象は国家がん検診対象者で、検診により今年度にごがん患者だと新規確認された場合、医療費の一部を支援してもらえます。ただし、肺がん患者には国家がん検診受検の有無によらず医療費が支援される。

※ がん検診年齢基準: 胃がん(満40歳以上)・乳がん(満40歳以上の女性)、大腸がん(満50歳以上)、肝臓がん(肝臓がん発症高危険群のうち満40歳以上)、子宮頸がん(満20歳以上の女性)、肺がん(肺がん発症高危険群のうち満54~74歳)

※ がん算定特例者または大腸内視鏡検査から5年が経過していない受検者は、当該がん検診の猶予ができます。

※ 国民健康保険公団(www.nhis.or.kr)にて診断対象者、診断施設、年度別診断結果などを確認することができます。